

2 第 17 回大会案内 (大阪大会)

応用生態工学会 第 17 回大会案内 (大阪大会)

2013 年 (平成 25 年) 9 月 18 日 (水) ~9 月 21 日 (土)

第 17 回総会・研究発表会・公開シンポジウム・自由集会・エクスカーショ

1. 大会概要

応用生態工学会では、2013(平成 25)年 9 月 18 日(水)~21 日(土)に大阪市にて、第 17 回大会を開催します。

9 月 19 日(木)~20 日(金)に行われる研究発表では、45 件の口頭発表、70 件のポスター発表が行われます。また、自由集会では幹事会主催のものも含め、9 つの集会が予定されています。

9 月 21 日(土)には、公開シンポジウム『都市河川の自然再生と防災を考える』を開催します。基調講演として、都市河川の環境全般に造詣が深く、韓国を代表する都市河川漢江をフィールドに、河川底生動物の立場から自然再生への提言やモニタリングを実施されてきた、アジアベントス学会の事務局長である Bae, YeonJae 教授 (高麗大学, 韓国) をお招きし、「清溪河の自然再生事業とその後」について講演頂き、国内の研究者・技術者との活発な意見交換を行えるシンポジウムとしたいと考えております。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

大会の初日の 9 月 18 日(水)には、淀川や大川での自然再生現場・防災施設などを見学し、都市河川の自然再生と防災について考えるエクスカーショを行います。

なお、本大会は土木学会継続教育(CPD)プログラムに認定されています。

【会場】

研究発表・総会・公開シンポジウム：大阪府立大学 I-site なんば

住所：大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル

電話：06-7665-0441 (代表)

URL：<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>

【大会日程】

9 月 18 日 (水)

- ・エクスカーショ ①バスコース 11:00~17:00
- ②船コース 16:00~18:00

9 月 19 日 (木)

- ・自由集会「【幹事会主催】放射性物質動態と流域生態系」 09:00~12:00 C3 会場
- ・自由集会「ダム下流生態系」 09:30~11:30 C2 会場
- ・自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う」 09:30~11:30 C1 会場
- ・ポスター発表プレゼンテーション 12:30~14:00 C1, C2, C3 会場
- ・ポスターコアタイム 1 14:00~15:00 A会場, ロビー
- ・ポスターコアタイム 2 15:00~16:00 A会場, ロビー
- ・自由集会「【幹事会主催】震災と環境対策」 16:00~19:00 C3 会場
- ・自由集会「河床の見方 - 水工学と生態学, 河川中上流域を中心として - 」 16:00~18:00 C2 会場
- ・自由集会「ダム湖エコトーン (水位変動帯) の応用生態工学」 16:00~18:00 C1 会場

大会の各プログラムは土木学会認定の CPD プログラムに認定されています。

9/18	エクスカーショ バスコース	3.6 単位
	船コース	1.8 単位
	バス+船	4.3 単位
9/19	研究発表会・自由集会 (1 日目)	8.0 単位
9/20	研究発表会・自由集会 (2 日目)	8.0 単位
9/21	公開シンポジウム	3.0 単位

CPD 単位は、実際に参加された時間数の認定とします



9 月 20 日 (金)

- ・口頭発表 09:30～12:00 C1, C3 会場
13:00～15:15 A, C1, C3 会場
- ・自由集会「震災復興に応用生態工学はどのような貢献ができるのか：岩手県大槌町での取り組み」 15:30～17:30 C1 会場
- ・自由集会「応用生態工学会 テキスト刊行委員会」 15:30～17:30 C2 会場
- ・自由集会「汽水域における空間分布モデル」 15:30～17:30 C3 会場
- ・懇親会 17:30～20:00 A会場, ロビー

9 月 21 日 (土)

- ・総会 10:30～11:30 C1, C2, C3 会場
- ・公開シンポジウム「都市河川の自然再生と防災を考える」 13:00～16:00 C1, C2, C3 会場

<参加／発表される皆様へ>

《受付》

- ・9 月 18 日(水)のエクスカーションは、各コースの出発時間の 30 分前より参加の受付を開始します(①バスコース 10:30 (新大阪駅団体バス乗場), ②船コース 15:30 (八軒家浜船着場))。
- ・9 月 19 日(木)は、9:00 から参加の受付を開始します。19 日(木)の受付は非常に混雑することが予想されます。早めに受付をお済ませください。
- ・9 月 20 日(金)は、9:00 から参加の受付を開始します。発表者のパワーポイントファイルの受付は 8:30 から行います。
- ・受付は 2 階ロビーで行います。名札をお渡ししますので、会場では必ず名札を付けてください。
- ・研究発表会参加費は、会員 6,000 円、学生 3,000 円、非学会員 10,000 円、費用には講演要旨集の料金が含まれます。懇親会参加費は一律 5,000 円です。大会運営をスムーズに行うため、事前申込および振込にご協力ください(発表申込は締め切りしましたが、参加は受付中です)。
- ・9 月 21 日(土)の総会は、10:00 から参加の受付を開始します。
- ・9 月 21 日(土)の公開シンポジウムは、12:30 から参加の受付を開始します。公開シンポジウムのみに参加される方は無料です。

《口頭発表される方へ》

- ・口頭発表は全て備え付けのパソコンと液晶プロジェクターで行います。パソコンの持ち込みはできません。OS は Windows 7, プレゼンテーションソフトは Power Point 2010 (Office 2010) です。Mac, 古いバージョンの Power Point, あるいはその他のソフトでプレゼンテーションを作成される方は、事前に Power Point 2010 で動作するか確認を行ってください(動作確認用を希望される方は会場係に申し出てください)。また備え付けのパソコンは、通常の Windows 7 日本語版で標準にインストールされているフォントのみが表示できます。
- ・パワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可)。提出期限は以下のとおりです。

9 月 20 日(金)	午前セッション (A, B, E, F)	9:00 まで
	午後セッション (C, D, G, H, I, J)	12:00 まで

- ・発表時間は発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。1 鈴: 10 分, 2 鈴: 12 分, 3 鈴: 14 分 30 秒です。時間

厳守にご協力ください。

- ・パソコンの操作は基本的に会場係が行いますが、自分で操作される方は会場係にお伝えください。

《ポスター発表される方へ》

- ・ポスター発表の会場は、A会場およびロビーです。パネルにポスター番号を貼り付けていますので、ご自分の発表番号のパネルにポスターを貼り付けてください。
- ・ポスターは横 90 cm, 縦 180 cm 以内のサイズで作製して下さい。ただし縦のサイズは床からのパネル高さのため、見やすい位置に貼り付けられるポスターサイズをお勧めします (A0 判 841 mm×1189mm を推奨します)。
- ・ポスターの上部に演題・発表者・所属を書いてください。発表者が複数の場合は、代表発表者の名前の前に○印を付けて下さい。
- ・ポスターの掲示期間は 9 月 19 日(木)～20 日(金)の全期間とし、19 日(木)の 9:00～12:00 の間に持参者自身で掲示して下さい。19 日(木)の 9:00～12:00 の間の掲示が困難な方は、コアタイム時間帯を避けた可能な限り早い時間に掲示するようにお願いします。
- ・9 月 19 日(木)12:30～14:00 にポスター発表のプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーションは 1 人 1 分以内でお願いします。使用するパワーポイントのファイルは、発表番号をファイル名とし、発表会場の受付に提出してください。ファイルはウィルスに感染していないことを確認のうえ、USB メモリ、CD-R で持参してください (MO, DVD, CD-RW は不可)。提出期限は以下のとおりです。

9 月 19 日(木) 11:30 まで

- ・コアタイム 1 (発表番号末尾奇数の方) は、9 月 19 日(木)14:00～15:00, コアタイム 2 (発表番号末尾偶数の方) は、9 月 19 日(木)15:00～16:00 です。ご自身のコアタイムのスケジュールをご確認され、自分の該当するコアタイムでは、ポスターの前で発表を行って下さい。
- ・ポスターの撤収は 9 月 20 日(金)の 12:30 からの 30 分間に持参者自身で撤収して下さい。掲示時間を過ぎてもポスターを貼り付けたままの場合は、実行委員がポスターを取り外します。取り外したポスターは、大会期間中は実行委員会で保管いたしますが、大会後は処分します。
- ・ポスターの事前送付は、事故防止のため一切受け付けません。発表当日に各自で持参してください。ポスターを貼り付ける押しピン、セロテープは会場に準備しています。指示棒などは各自持参してください。
- ・PC などの電子機器でデモンストレーションを行っても構いませんが、電源はありません。また大きな音の鳴るデモンストレーションなど、周囲の発表者への迷惑となる行為はご遠慮ください。
- ・申請のあった若手研究者、現場技術者または行政担当者の発表から優秀発表賞を選定します。研究の内容、プレゼンテーション技術などを基準に審査します。口頭／ポスターおよび研究／事例の各類別 (全 4 類別) について秀でた発表に優秀発表賞 (各若干名) を、最も秀でた口頭発表およびポスター発表に最優秀発表賞 (各 1 名) を授与します。
- ・21 日 (土) の総会 (10:30～11:30) に続いて、11:30～12:00 に優秀発表賞の表彰を行います。

2. 公開シンポジウム

＜このシンポジウムは、公益財団法人 河川財団の河川整備基金の助成を受けています。＞

【テーマ】

「都市河川の自然再生と防災を考える」

【企画のねらい】

水都と呼ばれる多くの都市は、河川とのかかわりの中で、固有の特色ある地史・歴史・文化を育み、河川の自然環境との共存を果たしてきました。しかし、近代から現代の流域開発や河川改修によって、都市河川の自然環境は、劣化の一途をたどりました。その反省のもと、韓国では清溪河、日本では淀川や多摩川で、自然再生事業が精力的に試みられてきました。一方、河口デルタに成立している都市は洪水・高潮・津波に弱く、東日本大震災では大きな被害を受けました。今後、東海・南海・東南海地震による大規模な被害が予測される太平洋沿岸域では、防災と自然環境の保全・再生を両立させる科学技術の確立が急務となっています。本シンポジウムでは、この両立をめざした課題整理と政策提言を目指します。

【公開シンポジウム プログラム(案)】

13:00 あいさつ 池淵 周一実行委員長

13:10 基調講演「清溪河の自然再生事業とその後」 Bae, YeonJae 教授(高麗大学, 韓国)

14:10 パネルディスカッション

コーディネーター:綾 史郎(大阪工業大学教授)

パネリスト:Bae, YeonJae(高麗大学教授, 韓国)

(話題提供) 田中 仁(東北大学教授)「津波による河川災害と環境の回復過程」

田井中 靖久(淀川河川事務所長)「淀川における自然再生の取り組み」

増田 昇(大阪府立大学教授)「水都大阪の景観」

竹門 康弘(京都大学准教授)「流域スケールの自然再生」

島谷 幸宏(九州大学教授)「自然再生と防災を両立させる政策提言の必要性」

16:00 終了予定

3. 自由集会

9つの自由集会が開催されます。集会には所属学会によらず参加でき、事前申込は不要です。

「【幹事会主催】放射性物質動態と流域生態系」

- ・企画：五味高志（東京農工大）・河口洋一（徳島大）
- ・日時：9月19日(木)9：00～12：00 会場：C3 会場
- ・内容：2011年3月の福島第一原発事故以降、福島県や周辺地域における水系網における放射性物質の動態や生態系への影響について、森林から農地や水田さらには沿岸域に至るまで、様々なモニタリングや研究が実施されている。福島県下を中心にさまざまなグループが、現在研究を進めておりますが、これまでのモニタリングの実施状況や研究成果について話題提供をいただき、それらの研究の横断的な意見交換を行うとともに、今後の長期的なモニタリングや調査の方向性、地域の資源管理の方向性、現地との協力、放射性物質対策などを含めて議論を進める予定である。

「【幹事会主催】震災と環境対策」

- ・企画：萱場祐一（土木研究所）・河口洋一（徳島大）
- ・日時：9月19日(木)16：00～19：00 会場：C3 会場
- ・内容：東日本大震災震災復興時の河川・海岸における環境対策に関する具体的事例を4人の演者から報告する。この報告を元に、研究者、行政、コンサルタント等の様々な立場から環境配慮を行う際の様々な課題を議論し、論点を整理する。また、今後起こりうる東海・東南海・南海地震等における復旧・復興において、効果的に環境配慮を行うために準備すべき内容等について議論を進め、応用生態工学として取り組むべき方向性について認識を共有することを試みる。

「河床の見方 - 水工学と生態学、河川中上流域を中心として - 」

- ・企画：原田守啓（土木研究所）・小野田幸生（土木研究所）
- ・日時：9月19日(木)16：00～18：00 会場：C2 会場
- ・内容：礫床河川の河床表層の状態は、ダム下流の粗粒化現象や土砂還元の取り組み等で注目されており、各所で研究が進みつつある。しかし、礫床河川の河床におけるマイクロハビタット研究は、学際的な取り組みが不十分であり、「浮き石、載り石、沈み石」といった定性的な見方からの進展が少ない。一方、海外論文をレビューすると、我が国の河川生態学におけるハビタット研究は、欧米にかなり遅れている印象をもたざるを得ない状況にある。川底は、土砂水理学、地形学とハビタット研究の双方の対象となる領域であるが、現在、日本には議論の場が設定されていないように思われる。応用生態工学会こそ、水工学（とりわけ土砂水理学、開水路の水理）とハビタット研究の共通言語としての議論の場ではないか？
以上の現状認識に基づき、本集会は、礫床河川の河床にまつわる水工学サイドの視点、生態学サイドの視点を下敷きに、国内外の研究動向のレビューと、国内若手研究者による河床のマイクロハビタットに注目した先進的な研究について紹介するとともに、今後の河床のマイクロハビタット研究の方向性について意見交換しようというものである。

「震災復興に応用生態工学はどのような貢献ができるのか：岩手県大槌町での取り組み」

- ・企画：久米学（岐阜経済大）・森誠一（岐阜経済大）
- ・日時：9月20日(金)15：30～17：30 会場：C1 会場
- ・内容：2011年3月11日、東日本大震災が発生し、東北地方沿岸に甚大なる被害をもたらした。岩手県大槌町では、人口の約10%の死亡行方不明と市街地の85%以上の壊滅という重篤な被災を受けた。震災から2年半が経過し、復興に向けた議論が進みつつある。その一方で、今後の復興に向けたまちづくりの方向性次第では、生物環境を

含む景観・風景は、人為的改変により甚大な影響を受ける可能性があるだろう。本集会では、応用生態工学という学問が、今後も起こり得る自然災害による被害軽減も視野に入れつつ、震災後の復興事業にどのようなスタンスをもって立脚し得るのか、について、岩手県大槌町での取り組みを事例に議論したい。

「ダム下流生態系」

- ・企画：辻本哲郎（名古屋大）・一柳英隆（水源地環境センター）
- ・日時：9 月 19 日(木)9：30～11：30 会場：C2 会場
- ・内容：ダムは河川の水を含む様々な要素（水、土砂、栄養塩、有機物など）のフラックス（経路と輸送量）を変化させることで下流生態系に影響を与える。水源地生態研究会の我々のグループでは、河川の潜在的な特性を踏まえつつ、ダムの下流生態系に対する影響と影響を軽減する方策の評価の枠組みをつくることを目的として 2008 年から研究を行ってきた。この自由集会では今までの成果の一部を報告し、多くの人と議論をすることで、評価に関する普遍的な仕組みをつくることを目指したい。

「ダム湖エコトーン（水位変動帯）の応用生態工学」

- ・企画：浅見和弘（応用地質）・一柳英隆（水源地環境センター）・谷田一三（大阪府大）・江崎保男（兵庫県立大）
- ・日時：9 月 19 日(木)16：00～18：00 会場：C1 会場
- ・内容：①アジアモンスーン気候下の日本では、毎年ほぼ決まった時期に洪水がある一方で、冬季には渇水となりやすい。これは日本の特徴であるが、ダムではこの特性を利用し、国土交通省、水資源機構管轄ダムの約 7 割が、非洪水期に水位を高く設定し、洪水期に水位を下げる「制限水位方式」を採用している。②「制限水位方式」のダムでは、洪水期と非洪水期で、毎年水位変動がみられるため、ダム湖畔には人工的なエコトーンが形成され、勾配の緩やかな斜面（水位変動帯）には植生が発達する。③ダム湖は、一般に同一規模の自然湖沼と比べて大きな集水面積を持つため、水や土砂の流入の影響を強く受け、河川流入部には独特な場が出来上がる。④堆砂や大きな水位変動に伴って、ダム湖では、自然湖沼とは異なった特徴の景観的・生態学的なエコトーンを形成され、生態学的にみてもユニークな存在である。

本集会では、これらを考慮し、ダム湖岸のエコトーンの成立過程、湖岸に生息する生物や生態系について紹介する。「ダム」というと、いままで生態系への悪影響ばかり取り上げられてきた感があるが、ダム湖ならではの生態系も存在する。ダム湖エコトーンの機能や実態に着目し、流域の生物多様性保全や水資源管理のためにダム湖エコトーンのあるべき姿について意見交換したい。

「小さな自然再生が中小河川を救う」

- ・企画：林博徳（九州大）
- ・日時：9 月 19 日(木)9：30～11：30 会場：C1 会場
- ・内容：昨年の ELR2012 東京では、自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！」が開催され、河道内における小さな自然再生の工夫に関する報告・議論が行われた。そこでは、岐阜県・兵庫県・福岡県における取り組みについて事例報告が行われ、「バイカモシヤンプー」、「バープ工」、「間伐材を用いた水制」など市民の手によっても導入可能なユニークな事例が紹介された。会場とのディスカッションの中では、「小さな自然再生を多自然川づくりの中での位置づけを明瞭にすべき」、「小さな自然再生の事例の集積・体系化が必要」、「市民参加の川づくりのツールとしても有効」などたくさんの意見が出され、活発な議論が行われた。本自由集会では、各地におけるその後の取り組みについて報告するとともに、昨年行われた小さな自然再生の議論を踏まえて、①多自然川づくりの中での小さな自然再生の位置づけや、②小さな自然再生を実施するうえでの課題と可能性について議論したい。

「応用生態工学会 テキスト刊行委員会」

- ・企画：萱場祐一（土木研究所）
- ・日時：9 月 20 日(金)15：30～17：30 会場：C2 会場
- ・内容：応用生態工学会テキスト刊行委員会では、成果の還元、会員へのサービスの向上を目的として、応用生態工学の入門書となるテキスト刊行を企画している。昨年度開催した自由集会では、テキスト刊行の考え方、そして、シリーズの内容、河道内氾濫原の概要についてディスカッションを行った。今年度は、現在執筆している河道内氾濫原のテキストの内容についてより詳細な報告を行うとともに、応用生態工学の入門の書として改善すべき点等について会場と議論を行いたい。

「汽水域における空間分布モデル」

- ・企画：乾隆帝（徳島大）・荒木田葉月（国立極地研究所・兵庫県立大学）
- ・日時：9 月 20 日(金)15：30～17：30 会場：C3 会場
- ・内容：汽水域は、生産力が高く、また汽水域特有の多種多様な生物が生息する。しかしながら、汽水域は人間活動により負のインパクトを受けつつあり、実際に多くの種が絶滅の危機に瀕している。そのため、近年は、汽水域生態系の保全や自然再生が課題となっている。そのような背景から、近年、汽水域を対象とした調査・研究は増えてきており、その結果、様々な種についての生態学的知見や分布データが蓄積されつつある。また、一部の河川については、横断形状や流量などの物理データも蓄積されてきている。しかしながら、現状ではそれらのデータが汽水域の保全・再生に有効活用されているとは言い難い。

これらのデータを汽水域の保全・再生に有効活用するための方法が、「空間分布モデルおよびモデル用いた潜在的生息地の地図化」である。広域スケールでの空間分布モデルは、国土の中で優先的に保全・再生すべき場所の選定に利用できる。一方、地盤高や底質など、詳細スケールのデータを用いた空間分布モデルは、保全・再生に向けた生息場の設計・管理手法を構築する上で重要な情報となる。様々な分類群において、広域から詳細なスケールの空間分布モデルを統合できれば、限られた時間・予算・資源の中で、効率的に汽水域生態系の保全・再生の生息場管理が行えるようになる。

そこで、本集会では、全国、流域、セグメント、マイクロハビタットといった複数の空間スケールにおける、鳥類、魚類、植物、無脊椎動物といった複数の分類群にわたる研究例を紹介する。本集会が、汽水域における様々な分類群・空間スケールの研究を統合し、総合的な汽水域の生息場管理のあり方について論じるための第一歩になることを期待している。

4. エクスカーション

大阪市は、淀川河口デルタ地帯に発達した都市であり、エクスカーションで訪れる淀川や大川（旧淀川）は、大阪都心部から約 6.0km の範囲内に位置しており、都市河川そのものです。

淀川では、都市近郊にありながら、多様な自然環境が残っており、また、自然再生事業にも取り組んでいます。

一方の大川（旧淀川）や大阪市内河川は、旧来からの都市河川の様相を呈している中でも、水都再生に関連して様々な取組が行われています。

エクスカーションでは、そのような都市河川の自然・歴史・文化および防災について、様々な視点から学びます。

【日時】

9 月 18 日（水）

※各コースとも定員は 40 名で先着順とします。

①バスコース

11:00 新大阪駅発 17:00 頃 大阪府津波高潮ステーション 解散

②船コース

16:00 ^{はちけんやはま}八軒家浜船着場発 18:00 頃 湊町船着場 解散

※①バスコースと②船コースに連続して参加される方は、途中の^{はちけんやはま}八軒家浜船着場でバスから船へと乗り換えになります（この場合、大阪府津波高潮ステーションは見学できません）。

【コース】

【①バスコース】 講師：河合 典彦先生(大阪市立城陽中学校・国土交通省淀川環境委員会委員)

上原 一彦氏(大阪府立環境農林水産総合研究所水生生物センター・国土交通省淀川環境委員会委員)

新大阪駅 (11:00 発)

↓
十三干潟

目の前に広がる大阪都心部と十三干潟・西中島ヨシ原の景観を見学します。
また、干潟では、底生生物や魚類等の観察を行います。



十三干潟

↓
柴島再生干潟

高水敷掘削により再生された干潟を見学します。



柴島再生干潟

↓
淀川大堰

管理橋を渡りながら堰や魚道などを見学し、右岸から左岸へ移動します。



淀川大堰

↓
毛馬水門・閘門, 毛馬排水機場・重文・毛馬第一閘門 (昼食)

昼食を兼ねて、水位差のある淀川と大川を結ぶ毛馬閘門, 国の重要文化財に指定されている毛馬洗堰, 毛馬第一閘門, 淀川改良工事に尽力した沖野忠雄像などを見学します。



赤川ワンド5号

↓
城北ワンド群

2005 年までイタセンバラが生息した淀川に残る最大規模のワンド群を見学します。



城北ワンド群

↓
赤川再生ワンド

自然再生事業で再生されたワンドで投網による魚類観察を行います。



イタセンバラ

↓
大阪ふれあいの水辺

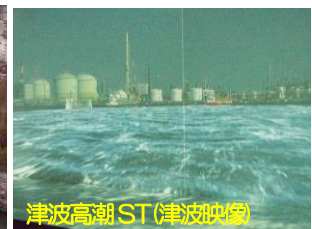
貯木場跡を利用して人工造成された砂浜の汀線で魚類や貝類などの生物観察を行います。



大阪ふれあいの水辺

↓
大阪府津波高潮ステーション

近い将来に発生が懸念される東南海・南海地震による津波災害を音と映像で体感します。



津波高潮ST(津波映像)

解散 (17:00 頃)

【② 船 コース】 講師：伴 一郎氏 (伴ピーアール株式会社)

八軒家浜船着場 (16:00 発)

↓
源八橋, 淀屋橋 (大川, 土佐堀川)

大阪市内の街並みや大川などに架かる橋梁を河川の中から見学します。



道頓堀川

↓
東横堀川, 道頓堀川

大阪市内の運河や閘門である道頓堀川水門の通航を体験します。



土佐堀川

↓
尻無川水門

大阪港と接する尻無川河口にある巨大防潮水門を船の上から間近で見学します。



尻無川水門

↓
湊町船着場

解散 (18:00 頃)

5. 懇親会

懇親会は、第3日目(9月20日(金))の研究発表(口頭)、自由集会の後、場所を移動せずに同会場で行います。大阪と言えば...?、本場の食材をとり揃えております。また毎回好評の「全国からうまいものを持ち寄る普及連携委員会」コーナーも充実しておりますので、ぜひご参加ください。

6. 参加申し込み方法

【申し込み先】

応用生態工学会ホームページの「参加申込フォーム」もしくはチラシよりお申込みください。申込期限は8月30日(金)、参加費のお振り込み期限は9月6日(金)です。

FAX・E-mail によるお申込は、『参加申込書』にご記入の上、下記までお申込下さい。

FAX 宛先：03-5216-8520 E-mail：osaka_17th@ecesj.com

応用生態工学会 URL: http://www.ecesj.com/J/events/annual/17th_meet/17th_meet.html

【参加料】

〔1〕研究発表会

会員：6,000 円、非会員：10,000 円、学生(会員・非会員)3,000 円。

参加料には講演要旨集が含まれておりますが、講演要旨集のみ希望の方は、3,000 円(送料 210 円もご負担ください)で販売しております。

※会場内に食堂等はありません。別途 1,000 円でお弁当が用意できます。参加申込みと同時に申し込みください。

〔2〕エクスクーション

①バスコース 会員：3,000 円、非会員：4,500 円、学生(会員・非会員)：1,500 円(昼食代含む)。

②船コース 会員：3,000 円、非会員：4,500 円、学生(会員・非会員)：1,500 円。

※①、②コースの両方に参加される場合は各コースの参加料の合算となります。

〔3〕懇親会

一律：5,000 円。

【参加料振込先】

〔1〕郵便振替口座

口座番号：00140-7-404275

口座名称：応用生態工学会

〔2〕銀行振込口座

銀行名：東京三菱銀行麹町中央支店

口座番号：(普通)1302920

〔口座名称〕 応用生態工学会 (オウヨウセイタイコウガクカイ)

7. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL：.03-5216-8401 FAX：03-5216-8520

E-mail：Osaka_17th@ecesj.com

－ 会場へのアクセス・会場案内 －

【会 場】

大阪府立大学 I-site なんば

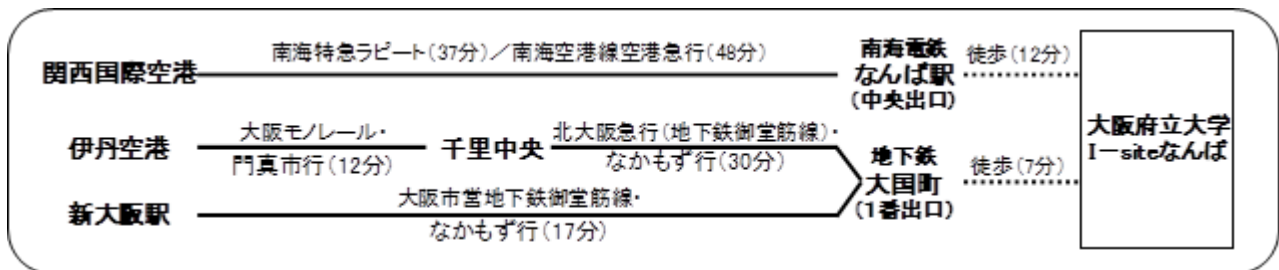
(大阪市浪速区敷津東 2 丁目 1 番 41 号 南海なんば第 1 ビル)

電話 : 06-7665-0441 (代表)

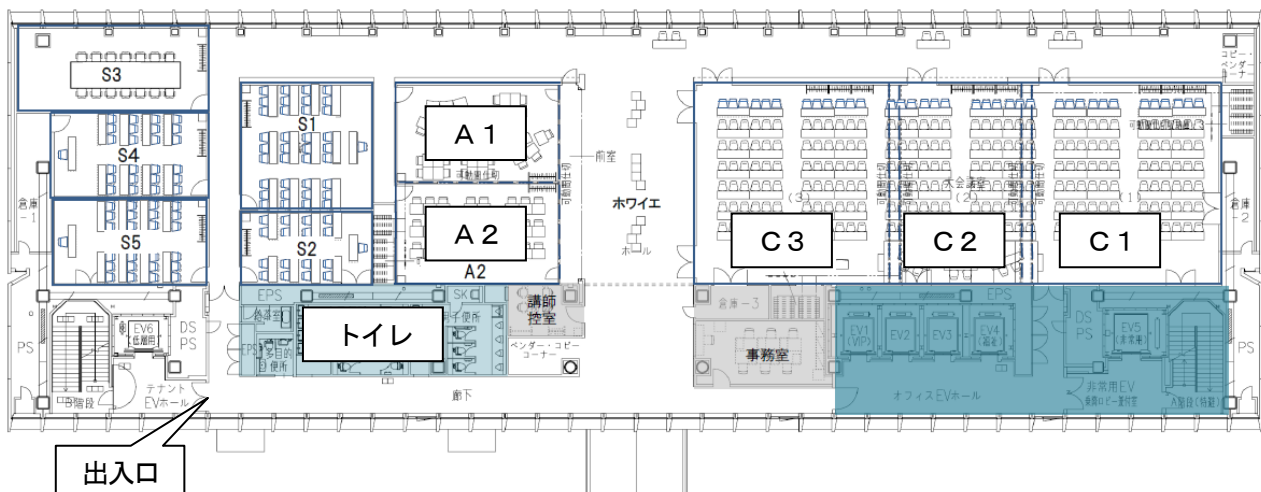
URL : <http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/map/index.html>



【会場までの主な交通機関】



【会場 配置図】



－ プログラム・会場対応表 －

全体スケジュール									
9月18日(水)									
エクスカーション									
11:00	17:00	①バスコース							
16:00	18:00	②船コース							
9月19日(木)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
9:30	11:30	自由集会	小さな自然再生が中小河川を救う		自由集会	ダム下流生態系	自由集会	(9:00-12:00) 【幹事会主催】放射 性物質動態と流域 生態系	休憩室
11:30	12:30	屋食							
12:30	14:00	ポスター 発表	プレゼンテーション						
14:00	15:00	控室		控室		控室		ポスター 発表	ポスターコアタイム
15:00	16:00								
16:00	18:00	自由集会	ダム湖エコトーン(水位 変動帯)の応用生態工 学	自由集会	河床の見方-水工学 と生態学、河川中上 流域を中心として-	自由集会	(16:00-19:00) 【幹事会主催】震災 と環境対策		
9月20日(金)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
9:30	12:00	口頭発表	A. 河床の環境と変動 B. ダム貯水池環境	5 5	控室	口頭発表	E. モニタリング F. 環境評価	4 5	休憩室
12:00	13:00	屋食							
13:00	15:15	口頭発表	C. ダム下流の河床環 境 D. 底生動物	4 5	控室	口頭発表	G. 魚類 H. 生物相管理	5 4	I. 国際 J. 住民との協働
15:30	17:30	自由集会	震災復興に応用生態 工学はどのような貢献 ができるのか:岩手県 大槌町での取り組み		自由集会	応用生態工学会 テキスト刊行委員会	自由集会	汽水域における空 間分布モデル	懇親会準備
17:30	20:00	控室							
懇親会									
9月21日(土)									
		C1		C2		C3		A	ロビー
10:30	11:30	第17回総会							
11:30	12:00	優秀発表表彰式							
12:00	13:00	屋食							
13:00	16:00	公開シンポジウム「都市河川の自然再生と防災を考える」							
								休憩室	

－ 研究発表会プログラム －

【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】

※発表者, タイトルの後の「研」は研究報告, 「事」は事例報告

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30~15:15 [C1会場]

セッションA 河床の環境と変動

- 9:30 A-1. **礫後流域の水理学的特性と水生昆虫群集との関係評価に関する礫床河川での現地実験:「研」**
古里栄一(埼玉大学大学院理工学研究科)・坂田良介^{*}(同 工学部建設工学科)・田中規夫(同 大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)
- 9:45 A-2. **多自然川づくりを導入した山地溪流におけるstep-pool構造の自律的回復過程:「研」**
島谷幸宏^{*}(九州大学大学院工学研究院環境社会部門)・劉 儀涛(同)
- 10:00 A-3. **航路確保を目的とした水制工設置による河川環境の応答について:「研」**
中西史尚^{*}((公財)河川財団近畿事務所)・綾 史郎(大阪工業大学都市デザイン工学科)
- 10:15 A-4. **流倒木による生息場形成と冠水頻度の関係:「研」**
寺田匡徳^{*}(京都大学大学院工学研究科)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・Bertoldi W.(トレント大学工学研究科)・角 哲也(京都大学防災研究所)
- 10:30 A-5. **上西郷川における間伐材を用いた瀬淵環境再生工法の導入と効果:「事」**
林 博徳^{*}(九州大学大学院工学研究院)・島谷幸宏(同)・新 希一(福岡県)・岩瀬広継(福岡市役所)

セッションB ダム貯水池環境

- 10:45 B-6. **曝気循環設備を用いたアオコ・カビ臭抑制のための実証実験:「研」**
今本博臣^{*}((独)水資源機構環境室)・太田志津子(同)・田作光良(同)
- 11:00 B-7. **一庫ダムにおける浮草・外来アゾラの消長:「事」**
小坪洋巳^{*}((独)水資源機構一庫ダム管理所)・鈴木武(兵庫県立人と自然の博物館)・子川直樹((独)水資源機構中部支社)
- 11:15 B-8. **特定外来生物オオクチバスの繁殖抑制のための人工産卵装置の改良:「事」**
中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)
- 11:30 B-9. **三春ダムにおけるリフレッシュ放流を活用したブルーギルの繁殖抑制の試験的な取り組み:「事」**
沖津二郎^{*}(応用地質(株))・樋口貴哉(同)・中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・大杉奉功((一財)水源地環境センター)・浅見和弘(応用地質(株))・土岐範彦(国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所)・松崎厚史(同 三春ダム管理所)・小山幸男(同)
- 11:45 B-10. **太湖流域における生態工学ダムによる水質改善の検討:「研」**
郝 愛民(九州大学東アジア環境研究機構)・久場隆広(同 工学研究院環境社会部門)・井芹 寧^{*}(西日本技術開発(株))・張 振家(上海交通大学環境科学与工程学院)・李 春杰(同)

12:00~13:00 — 休憩 —

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30～15:15 [C1会場]

セッションC ダム下流の河床環境

- 13:00 C-11. **生物にとっての河床構造を保全するための適度な土砂供給:「事」**
 渡辺 敏^{*}((株)ウエスコ)・藤原正季(同)・
 横尾和久(国土交通省温井ダム管理所)・堀井信裕(同)
- 13:15 C-12. **二瀬ダム下流河川における土砂還元の効果:非出水期における小規模河床材料の移動性に着目して:「研」**
 田中規夫^{*}(埼玉大学大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)・
 古里栄一(埼玉大学大学院理工学研究科)
- 13:30 C-13. **物理的攪乱と水生昆虫群集の関係—津田仮説に基づく新しい群集指標の提案と二瀬ダム土砂還元の影響評価への適用の試み—:「研」**
 古里栄一^{*}(埼玉大学大学院理工学研究科)・
 田中規夫(埼玉大学大学院理工学研究科/同 環境科学研究センター)
- 13:45 C-14. **札内川におけるフラッシュ放流に伴う水生昆虫の応答:「研」**
 渡辺のぞみ^{*}(北海道大学環境科学院)・根岸淳二郎(同)・植村郁彦(同)・
 中村太士(北海道大学農学院)

セッションD 底生動物

- 14:00 D-15. **河川性底生動物が持つ生態系サービス:藻類食者がシルトの堆積した付着藻類に及ぼす影響:「研」**
 森 照貴^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・
 高木哲也(同/応用地質(株))・加藤康充(同/同(株)建設環境研究所)・
 小野田幸生((独)土木研究所自然共生研究センター)・宮川幸雄(同)・
 萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- 14:15 D-16. **異なる河川底質におけるカワシンジュガイの生態的機能:「研」**
 高木優風花^{*}(北海道大学環境科学院)・根岸淳二郎(同)・
 布川雅典(北海道大学農学部農学院)・
 久米 学(岐阜経済大学地域連携推進センター)・
 照井 慧(東京大学大学院農学生命科学研究科)
- 14:30 D-17. **群馬県赤谷川水系茂倉沢において治山施設再整備が底生動物へ与えた影響:「研」**
 内田臣一^{*}(愛知工業大学工学部都市環境学科土木工学専攻)・
 兵藤峻基(同)・近藤高弘(同)
- 14:45 D-18. **千曲川中流域における自然再生事業により新規創生された瀬ハビタットにおける底生動物の新規定着と遺伝的多様性の変遷:「研」**
 斎藤梨絵^{*}(信州大学総合工学系研究科)・関根一希(生物資源研究所)・
 東城幸治(信州大学理学部)
- 15:00 D-19. **小水力発電のための取水が溪流生態系に与える影響:鳥取県加地川加地発電所の事例:「研」**
 大山璃久^{*}(九州大学大学院)・一柳英隆(九州大学大学院工学研究院)・
 林 博徳(同)・佐藤辰郎(同)・皆川朋子(熊本大学大学院)・
 中島 淳(福岡県保健環境研究所)・島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院)

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30~15:15 [C3会場]	
セッションE モニタリング	
9:30 E-20.	現地放流実験を利用した魚道施設とその操作方法の改善に向けた検討とモニタリング:「研」 空閑徹也 [※] (東日本旅客鉄道(株))・森山泰明(同)・枡本 拓(同)・澤村里志(同)・永矢貴之((株)建設技術研究所)・澤樹征司(同)
9:45 E-21.	長期モニタリングの必要性と保全措置の考え方の留意点～ヒヌマイトンプの保全措置を通じて:「事」 瀬口雄一 [※] ((株)建設技術研究所)・羽尻光宏(同)・兼頭 淳(同)
10:00 E-22.	霞ヶ浦のアサザ植栽事業が示す自然再生事業の課題:「研」 山室真澄 [※] (東京大学大学院新領域創成科学研究科)・小室 隆(同)・加茂川優紀(同)
10:15 E-23.	休耕田を掘削して造成した湿地ビオトープにおける生物相の変化:「事」 中島 淳 [※] (福岡県保健環境研究所)・宮脇 崇(同)
セッションF 環境評価	
10:30 F-24.	インガイ類をモデルとした氾濫原再生適正地の抽出手法の開発:「研」 永山滋也 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・原田守啓(同)・萱場祐一(同)
10:45 F-25.	中小河川の河道内における生物生息場の確保に関する一考察:「研」 大石哲也 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・高岡広樹(同)・原田守啓(同)・萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
11:00 F-26.	河川汽水域における底生動物群集とその生息場特性に関する考察:伊勢湾流域圏を対象とした河川環境データベースを用いた解析:「研」 田代 喬 [※] (名古屋大学大学院環境学研究科)・伊藤和馬(同 工学研究科)・李 楠楠(同 環境学研究科)・辻本哲郎(同 工学研究科)
11:15 F-27.	自然力による再生氾濫原の自己維持のメカニズム—アザメの瀬における二枚貝とヒシの定着および変動を例とする:「事」 劉 佳 [※] (九州大学大学院工学府)・林 博徳(同)・稲熊祐介(同)・島谷幸宏(同)
11:30 F-28.	霞ヶ浦底泥中に存在する生物由来リンの形態と間隙水中のリン濃度との関係: 篠原隆一郎 [※] ((独)国立環境研究所)・今井章雄(同)・川崎伸之(同)・小松一弘(同)・高津文人(同)・三浦真吾(同)・佐野友春(同)・佐藤貴之(同)・富岡典子(同)
12:00~13:00 — 休憩 —	

口頭発表 9月20日(金)—3日目— 9:30～15:15 [C3会場]

セッションG 魚類

- 13:00 G-29. **絶滅危惧種イタセンパラ個体群の遺伝的構造と保護管理策への提言:「研」**
北西 滋^{*}(水産総合研究センター)・西尾正輝(氷見市教育委員会)・
佐川志朗(兵庫県立大学／(独)土木研究所自然共生研究センター)・
上原一彦(大阪府水生生物センター)・小川力也(西野田工科高校)・
横山達也(大阪市水道記念館)・池谷幸樹(アクア・トトぎふ)・江戸謙頭(文化庁)
- 13:15 G-30. **ランダムフォレストを用いたタイリクバラタナゴと在来タナゴ類の共存パターン解析:「研」**
福田信二^{*}(九州大学大学院農学研究院)・山口真理恵(長崎市役所)・
鬼倉徳雄(九州大学大学院農学研究院)・平松和昭(同)・原田昌佳(同)・
中島 淳(福岡県保健環境研究所)
- 13:30 G-31. **減勢池がない河川横断構造物が仔アユの降河に与える影響に関する研究:「研」**
安田陽一(日本大学理工学部土木工学科)・
藤原 直^{*}(日本大学大学院理工学研究科)
- 13:45 G-32. **シロザケ個体群の多様性維持における河床間隙水および河川地形の役割:「研」**
ト部浩一^{*}(北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場)・下田和孝(同)
- 14:00 G-33. **電波テレメリーとビデオカメラを用いた繁殖期におけるナマズの移動行動の解明-繁殖水路への移動に着目して-:「研」**
森 晃^{*}(東京農工大学大学院連合農学研究科(宇都宮大学配置))・
後藤 章(宇都宮大学農学部)

セッションH 生物相管理

- 14:15 H-34. **地上徘徊性昆虫類の保全を目的とした這い出し側溝の1事例:「事」**
高柳茂暢^{*}(アジア航測(株))・山口一彦(同)・岩舘知寛(同)・高橋優香(同)・
藤田俊之(宮城県道路公社)・高橋 徹(同)
- 14:30 H-35. **河道内ヨシ群落の繁茂抑制に関する検討:「研」**
山西博幸^{*}(佐賀大学低平地沿岸海域研究センター)・
佐藤博志(国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所)・
川崎裕之(同 川辺川ダム砂防事務所)・山本佳久(同 武雄河川事務所)
- 14:45 H-36. **オオサンショウウオ生息環境保全策の現地試験:「研」**
久納 誠^{*}((独)水資源機構総合技術センター)・加藤正典(同 川上ダム建設所)
- 15:00 H-37. **霞ヶ浦の堤脚水路にみられる水生植物について:「事」**
片桐浩司((独)土木研究所河川生態チーム)・大寄真弓(同)・萱場祐一(同)

口頭発表 9月20日(金) - 3日目 - 13:00~15:00 [A会場]	
セッションI 国際	
13:00	I-38. Relations of aquatic habitat structure to reach-scale channel configuration and their historical changes in the Kizu River :「Case Study」 Mikyong CHOI [※] (Graduate School of Engineering, Kyoto University)・ Yasuhiro TAKEMON (Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University)・ Sohei KOBAYASHI (ditto)・Tetsuya SUMI (ditto)
13:15	I-39. Effect of calcium and magnesium on growth and calcite formation of <i>Chara fibrosa</i> :「Reserch」 Mudalige Don Hiranya Jayasanka Senavirathna [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)・ Yasuko Kaneko (Faculty of Education, Saitama University)
13:30	I-40. Performance of two invasive vines on contrasting floodplain soils subjected to different flooding regimes :「Reserch」 Md. Harun Or Rashid [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)
13:45	I-41. Vegetation change at Dam's downstream in the river channel of Japan :「Reserch」 Uddin F.M. Jamil [※] (Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)・Takashi Asaeda (ditto)
14:00	I-42. Characteristics of Cross Sectional Shape and Sediment Dynamic in Meandering Rivers :「Reserch」 Hendra RAMDHANI [※] (Department of Civil Engineering, the University of Tokyo)・ Agus SANTOSO (ditto)・Takeyoshi CHIBANA (ditto)
セッションJ 住民との協働	
14:15	J-43. 「野崎詣り」に見られる寝屋川流域の親水景観と大阪の水環境 :「事」 芝崎美世子 (大阪市立大学大学院理学研究科)
14:30	J-44. 住民主体の河川環境保全・再生活動の活性化に関する分析 :「研」 神谷大介 [※] (琉球大学)・赤松良久 (山口大学大学院)・池田晴香 (山口大学)
14:45	J-45. コウノトリ・トキと共生する環境保全活動に対する意識調査ー豊岡市、佐渡市、鴻巣市の意識比較分析ー :「研」 川島秀男 [※] (埼玉大学大学院理工学研究科)・深堀清隆 (同)・浅枝 隆 (同)

【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】

※発表者，タイトルの後の「研」は研究報告，「事」は事例報告

ポスター発表 9月19日(木)―1日目― 12:30～16:00 [会場:A会場・ホール]	
12:30～14:00	ポスター発表要旨説明(概要1分発表)……C会場
14:00～15:00	コアタイム1(セッション末尾奇数番)……A会場・ホール
15:00～16:00	コアタイム2(セッション末尾偶数番)……A会場・ホール
セッションA 河床環境・河川地形	
PA-1.	木曽川における河床の露盤化と局所深掘れの変遷と実態:「研」 永山滋也 [※] (独)土木研究所自然共生研究センター)・ 根岸淳二郎(北海道大学地球環境科学研究院)・ 高岡広樹((独)土木研究所自然共生研究センター)・萱場祐一(同)
PA-2.	河岸が岩盤からなる河川における蛇行形態と瀬-淵構造特性の関係:「研」 橋口遥介 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・原田大輔(同)・ 知花武佳(同)
PA-3.	洪水による礫河原の変形と粒度分布の変化に関する研究:「研」 日野将人 [※] (東京大学大学院工学系研究科)・原田大輔(同)・知花武佳(同)
PA-4.	出水に伴う河床の土砂堆積と河床間隙水内の細粒土砂濃度の変動:「研」 笠原玉青 [※] (九州大学農学研究院)・安田悠子(同)・大槻恭一(同)
PA-5.	地質が河床材料と河川生物に与える影響:「研」 池上 龍 [※] (熊本大学大学院)・皆川朋子(同)
PA-6.	礫床河川の砂礫州における伏流水流動特性―砂州の地形・土壌条件に着目して―:「研」 尾花まき子 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・長井翔太郎(同)・ 知花知佳(同)
PA-7.	Spatial Variation of Stream-groundwater exchange in a Steep Headwater Stream:「研」 Sodouangdenh Somsanouk [※] (九州大学農学研究院)・笠原玉青(同)・大槻恭一(同)・ 恩田裕一(筑波大学アイソトープ環境動態研究センター)
PA-8.	巨礫を有する山地河川の流域・河道特性が土砂動態に与える影響とそのメカニズム:「研」 川口淳郎 [※] (東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・原田大輔(同)・ 知花武佳(同)
セッションB 氾濫原	
PB-9.	宮崎県北川における霞堤防が有する生態的機能の評価:「研」 富山雄太 [※] (九州大学工学研究院)・山下奉海(同)・佐藤辰郎(同)・島谷幸宏(同)
PB-10.	淀川楠葉地区の復元ワンド群の地形変動と自然再生:「研」 佐藤寛容 [※] (大阪工業大学大学院)・綾 史郎(大阪工業大学)・ 中西史尚((公財)河川財団近畿事務所)
PB-11.	タナゴ類、イシガイ科二枚貝の生息に好適な冠水頻度のたまりの抽出に関する航空レーザ計測データの活用について:「事」 池田欣子 [※] (アジア航測(株))・西井一浩(同)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・ 木瀬龍也(国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所)
セッションC ダム下流の河床環境	
PC-12.	粗粒化した石礫河床への土砂供給が流れ場の構造に及ぼす影響:「研」 原田守啓 [※] ((独)土木研究所自然共生研究センター)・小野田幸生(同)・ 萱場祐一(同 河川生態チーム)
PC-13.	筑後川におけるフラッシュ放流パターンによる生物等の応答について:「事」 竹本 進 [※] ((株)建設環境研究所)・豊國法文(同)・ 岩下 良(国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所)
PC-14.	ダム下流河川における河川流況や濁度が大型糸状緑藻類に及ぼす影響について:「事」 井内拓馬 [※] ((株)建設環境研究所)・富田邦裕(同)・本間隆満(同)・ 福嶋 悟(藻類研究所分析センター)・ 羽澤敏行(国土交通省関東地方整備局相模川水系広域ダム管理事務所)・ 蘭 勝司(同)

PC-15. 天竜川における流況変動履歴が瀬の河床固化に及ぼす影響:「研」

栗津陽介^{*}(京都大学大学院工学研究科)・角 哲也(京都大学防災研究所)・
竹門康弘(同)・兵藤 誠(いであ(株))

PC-16. 嘉瀬川ダム湛水開始時の流況変化に伴う下流河道植生の変化—流況の平滑化は樹林化のトリガーとなるか?—:「研」

黒木啓孝^{*}(九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻)・
島谷幸宏(九州大学大学院工学研究院)・一柳英隆(同)

セッションD ダム貯水池

PD-17. 鶴田ダムにおけるボタンウキクサ(*Pistia stratiotes*)駆除の取り組み:「事」

森原百合^{*}(日本工営(株)中央研究所)・道家健太郎(同 福岡支店)・西川隆清(同)・
今村史子(同 中央研究所)・久保祐太郎(国土交通省九州地方整備局鶴田ダム管理所)

PD-18. 西之谷ダムにおける湿地環境創出型貯水池計画と創出された湿地の生物生息場としての機能評価:「研」

皆川朋子^{*}(熊本大学工学部)・井上剛介(同)・林 博徳(九州大学)・島谷幸宏(同)・
淵上祐史(東京都)・日高正明(鹿児島県)

PD-19. ダム湖におけるオオクチバス低密度管理の事例報告:「事」

笹田直樹^{*}((株)ウエスコ)・芹澤英一郎(同)・佐貫方城(同)・
中井克樹(滋賀県立琵琶湖博物館)・
土江清司(国土交通省中国地方整備局苫田ダム管理所)

セッションE 河川管理

PE-20. 河川堤防の草地管理が繁殖鳥類に及ぼす影響—渡良瀬遊水地の堤防での調査結果から—:「研」

西 浩司^{*}(いであ(株))・山岸 哲((公財)山階鳥類研究所)・原田俊司(いであ(株))・
松沢友紀(同)・益子 理(同)

PE-21. 中国地方の一級河川における河川樹林化の要因分析～ヤナギ群落に着目して～:「研」

上鶴翔悟^{*}(山口大学工学部)・赤松良久(同 大学院理工学研究科)・
神谷大介(琉球大学工学部環境建設工学科)・竹村紫苑(総合地球環境学研究所)

PE-22. 河川堤防における小動物の巣穴被害把握手法の検討:「事」

宮島泰志^{*}((株)建設技術研究所)・黒田兆次(同)・鈴木太郎(同)・安形仁宏(同)・
村瀬勝彦(国土交通省九州地方整備局武雄河川事務所)・佐藤博志(同)・野中裕二(同)・
土井美智子(同)

セッションF 環境評価・モニタリング

PF-23. 東郷池における覆砂による水質・底質改善の評価～覆砂効果の検証と $\delta^{13}\text{C}$ ・ $\delta^{15}\text{N}$ による浮泥起源の把握～:「事」

赤桐さやか^{*}(応用地質(株))・伊藤正美(同)・高橋和也(OYOインターナショナル(株))・
木山真大(鳥取県中部総合事務所生活環境局)

PF-24. 河川における生物生息適地モデルの結果を用いた相補性解析の試み:「研」

前田義志^{*}(前 国土交通省国土技術政策総合研究所環境研究部河川環境研究室(現 国
総研河川研究部河川研究室)・中村圭吾(同)・
岩見洋一(同 (現 (独)土木研究所 ICHARM))・川口 究(いであ(株))

PF-25. 水環境の古写真を用いた情報の抽出とアーカイブ教材の開発:「研」

吉富友恭^{*}(東京学芸大学環境教育研究センター)・方 華(同 大学院)

PF-26. 植生と移動形態に着目した砂州の分類とその物理特性:「研」

原田大輔^{*}(東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・知花武佳(同)

PF-27. 宍道湖における水辺植生帯および隣接水域の環境変遷:「研」

小室 隆^{*}(東京大学大学院新領域創成科学研究科)・山室真澄(同)

PF-28. 新たな河川生態環境評価法に関する基礎的検討～中国地方の一級河川を対象として～:「研」

高村紀彰^{*}(山口大学大学院理工学研究科)・赤松良久(同)

PF-29. 生態環境多様性を用いた河川生息場評価ソフトウェアの開発:「研」

田部崇博^{*}(山口大学大学院)・関根雅彦(同)・伊藤浩文(同)・岡室直樹(同)・
神野有生(同)・山本浩一(同)

PF-30. 河川事業の影響評価等における遺伝情報の活用化に向けた研究:「研」

増本育子^{*}(中電技術コンサルタント(株))・山原康嗣(同)・
安形仁宏(株)建設技術研究所)・太田宗宏(同)・村岡敬子((独)土木研究所)

PF-31. 農業活動が宮島沼の水質の時空間変動に及ぼす影響:「研」

横山 諒^{*}(北海道大学大学院農学院)・山田浩之(北海道大学大学院農学研究院)・
木塚俊和(国立環境研究所)・海津 裕(東京大学大学院農学生命科学研究科)・
牛山克己(宮島沼水鳥・湿地センター)

セッションG 植生

PG-32. 河道内の微地形及び土壌環境条件に着目したオギ・ヨシの群落特性に関する研究:「研」

片野坂瑛一^{*}(東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻)・尾花まき子(同)・
知花知佳(同)

PG-33. 矢作川における要注外来生物オオカナダモ(*Egeria densa*)の繁茂状況と駆除の試み:「事」

内田朝子^{*}(豊田市矢作川研究所)・白金晶子(同)・洲崎燈子(同)・
裕 伸夫((NPO)矢作川森林塾)・椿 隆明(矢作川漁業協同組合)・角野康郎(神戸大学)

PG-34. 淀川河口域におけるヨシの生産と分解について:「研」

田中孝一^{*}(大阪府立大学工業高等専門学校)・川崎太輝(同)・大谷壮介(同)

PG-35. 矢作川におけるオオカナダモ(*Egeria densa*)の生長と形態に及ぼす光条件の影響:「事」

森原百合^{*}(日本工営(株)中央研究所)・今村史子(同)

PG-36. 濁水に含まれる無機物の堆積が付着藻類の一次生産性に及ぼす影響:「研」

宮川幸雄^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・森 照貴(同)・小野田幸生(同)・
加藤康充(同/株)建設環境研究所)・萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)

セッションH 底生動物

PH-37. 木津川における底生動物生息場としての瀬の変遷の評価:「研」

小林草平^{*}(京都大学防災研究所)・竹門康弘(同)

PH-38. 二極化発生区間および解消区間における魚類・底生動物群集の出水攪乱への反応:「研」

今田慎太郎^{*}(愛媛大学大学院理工学研究科)・三宅 洋(同)・井上幹生(同)

PH-39. 流量変動に伴う生息場所サイズの変動が河川性底生動物に及ぼす影響:「研」

山崎久美子^{*}(愛媛大学大学院理工学研究科)・三宅 洋(同)・今田慎太郎(同)

PH-40. 河口干潟における底質特性を用いた洪水後の底生生物群集の予測:「研」

大谷壮介^{*}(大阪府立大学工業高等専門学校)・
上月康則(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・
倉田健悟(島根大学汽水域研究センター)

PH-41. 森林管理による溪流底生動物群集の変化:強度間伐と降雨流出による影響評価:「研」

渡邊祐介^{*}(東京農工大学大学院農学府)・境 優(同 農学研究院)・
布川雅典(北海道大学大学院農学研究院)・五味高志(東京農工大学大学院農学研究院)

PH-42. 日本産カゲロウ類の網羅的DNAバーコーディング:「研」

脇村 圭^{*}(大阪府立大学大学院理学系研究科)・竹門康弘(京都大学防災研究所)・
高柳 淳(慶應大学・医/慶應大学先端研GSPセンター)・
谷田一三(大阪府立大学大学院理学系研究科)・石綿進一(神奈川工科大学)・
清水信義(慶應大学先端研GSPセンター)・
加藤幹男(大阪府立大学大学院理学系研究科/大阪府立大学高等教育機構)

PH-43. 徳島県南部における通し回遊性ヌマエビ類の生息場:「事」

齋藤 稔^{*}(徳島大学大学院総合科学教育部)・米澤孝康(同)・
浜野龍夫(徳島大学大学院ソシオアーツ・アンド・サイエンス研究部)

PH-44. 農業水路群における水生無脊椎動物群集のβ多様性形成に影響する要因:「研」

大平 充^{*}(東京農工大学農学部)・千賀裕太郎(同)

セッションI 魚類

- PI-45. **荒川たんぼに生息するトミヨの保全・再生方針の検討:「研」**
宮澤康人^{*}((株)東京建設コンサルタント)・池村彰人(同)・
弘田英人(北陸地方整備局羽越河川国道事務所)・吉川 進(同)・渡邊 圭(同)・
樋口正仁(荒川たんぼ自然再生検討委員会)
- PI-46. **都市河川における天然アユ復活の取り組み～芥川1号井堰魚道におけるアユの遡上数の
傾向～:「事」**
才野紅葉^{*}(摂南大学理工学部)・田中宗繁(同)・石田裕子(同)・
花崎勝司(芥川緑地資料館)・芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
- PI-47. **室見川における河川横断構造物の変遷と魚類ハビタットへの影響:「研」**
伊豫岡宏樹^{*}(福岡大学)・山崎惟義(同)・渡辺亮一(同)・浜田晃規(同)・
皆川朋子(熊本大学)
- PI-48. **熊本県境川におけるタナゴ亜科の生息場評価とこれに配慮した河川改修案の提案:「研」**
皆川朋子^{*}(熊本大学工学部社会環境工学科)・川野麻沙美(大分県)・
奈須朝也(熊本大学工学部社会環境工学科)・川本明慶(九州大学大学院)・
林 博徳(同)・鬼倉徳雄(同)
- PI-49. **赤川・城北ワンド群の環境変化による生息魚類の変遷:「研」**
山野上祐司^{*}(大阪工業大学大学院)・綾 史郎(大阪工業大学都市デザイン工学科)・
内藤 馨(大阪府立水生生物センター)・佐藤寛容(大阪工業大学大学院)
- PI-50. **四国における河川魚類を対象とした種の多様性の評価:「研」**
香川祥大^{*}(徳島大学大学院先端技術科学教育部)・竹川有哉(同)・
赤坂卓美(北海道大学大学院農学研究院)・
乾 隆帝(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・
佐藤陽一(徳島県立博物館)・河口拓紀(愛媛大学大学院理工学研究科)・井上幹生(同)・
河口洋一(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- PI-51. **豊平川におけるPHABSIMによるシロザケの産卵環境要素の推定と適地評価:「研」**
矢野雅昭^{*}((独)土木研究所寒地土木研究所)・
渡邊康玄(北見工業大学社会環境工学科)・
矢部浩規((独)土木研究所 寒地土木研究所)・渡邊和好(同)
- PI-52. **濁りがアユの行動に与える影響～テレメトリー法を用いて～:「事」**
加藤康充^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター／(株)建設環境研究所)・
森 照貴((独)土木研究所自然共生研究センター)・
高木哲也((独)土木研究所自然共生研究センター／応用地質(株))・
小野田幸生((独)土木研究所自然共生研究センター)・
萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- PI-53. **土砂供給に伴う河床表層の変化が、魚類の空間利用におよぼす影響:「研」**
小野田幸生^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・原田守啓(同)・森 照貴(同)・
加藤康充((独)土木研究所自然共生研究センター／(株)建設環境研究所)・
高木哲也((独)土木研究所自然共生研究センター／応用地質(株))・
萱場祐一((独)土木研究所河川生態チーム)
- PI-54. **琵琶湖流入河川におけるアユの産卵適地:「研」**
小澤元生^{*}(龍谷大学大学院理工学研究科)・遊磨正秀(同)
- PI-55. **魚類における分散と個体数-分布関係:「研」**
満尾世志人^{*}(龍谷大学理工学部環境ソリューション工学科)・
角田裕志(岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター)・
小澤元生(龍谷大学理工学部)・遊磨正秀(同)
- PI-56. **石狩川上流におけるシロザケの産卵適地と探索行動ー加速度ロガーによる行動解析事例
ー:「事」**
有賀 誠^{*}(明治コンサルタント(株))・津田裕一(近畿大学水産研究所)・
山口 紘(北海道大学大学院環境科学院)・伊藤博満(水産総合研究センター)・
宮下和士(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)

PI-57. **ダムのある・なしにおけるアユの食味と藻類群集・水質との関係に関する研究:「研」**

上村嘉彦^{*}(徳島大学大学院先端技術科学教育部)・
河口洋一(同 ソシオテクノサイエンス研究部)・野崎健太郎(椋山女学園大学教育学部)

PI-58. **アユの鱗紋分析による簡便で経済的な由来分析:「事」**

池田欣子^{*}(アジア航測(株))・山賀由貴(同)・西井一浩(同)・
竹門康弘(京都大学防災研究所)・
濱田 博(国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所)

PI-59. **中国の中小河川における魚類多様性保全に向けたハビタット―河道特性パラメータの関係性に関する研究:「研」**

佐藤辰郎^{*}(九州大学工学研究院)・鹿野雄一(同)・山下奉海(同)・島谷幸宏(同)・
李 建華(同済大学環境科学与工程学院)

PI-60. **半島マレーシアにおける外来魚の分布状況と土地利用の関係について:「研」**

山下奉海^{*}(九州大学工学研究院)・鹿野雄一(同)・島谷幸宏(同)

セッションJ 昆虫・鳥類

PJ-61. **”ホタルの舞い飛ぶキャンパスづくり”の今後に向けて:「研」**

松木 越^{*}(東洋大学大学院工学研究科環境・デザイン専攻)・
福井吉孝(同 理工学部都市環境デザイン学科)・青木宗之(同)

PJ-62. **能登半島におけるイカリモンハンミョウの減少と海浜地形変化:「研」**

市川広幸^{*}((公財)日本生態系協会)・宮川泰平(石川県立大学大学院)・
柳井清治(石川県立大学)・上田哲行(同)

PJ-63. **羽毛微量元素分析を用いた草原棲希少小型鳥類の繁殖地判別:「研」**

坂 有希子^{*}(弘前大学大学院農生)・蛭名純一((NPO)おおせっからんど)・
作山宗樹(ネクサス(株))・三上かつら(バードリサーチ)・渡邊 泉(東京農工大学農)・
東 信行(弘前大学大学院農生)

セッションK 住民との協働

PK-64. **環境教育の場に求められる河川空間とその活用意義:「研」**

藤井佑香^{*}(東京学芸大学大学院)・吉富友恭(同 環境教育研究センター)

PK-65. **国内展示施設における生物多様性展示の現状:「研」**

渡辺友美^{*}((独)土木研究所自然共生研究センター)・吉富友恭(東京学芸大学)・
萱場祐一((独)土木研究所自然共生研究センター)

PK-66. **住民参加型の都市河川再生に向けた環境教育アプローチ～マレーシア・ウェイ川におけるWATER Projectの調査事例～:「事」**

和田 彰^{*}((株)建設技術研究所国土文化研究所)・
田井さゆみ(東京学芸大学教育学部)・
吉富友恭(東京学芸大学環境教育研究センター)

PK-67. **輪中地域における水郷景観の再生に向けての展望 ― 堀田は再生できるか:「事」**

小林卓司^{*}((株)修成建設コンサルタント)・南野龍平(同)

PK-68. **コウノトリ育む農法と慣行農法による水田の水生生物群集構造の差異:「研」**

佐川志朗^{*}(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)・宮西 萌(近畿大学)・
奥村大輝(同)・細谷和海(同)・内藤和明(兵庫県立大学／兵庫県立コウノトリの郷公園)・
江崎保男(同)

PK-69. **福井県越前市におけるコウノトリが飛来した水田の生物相について:「事」**

日和佳政^{*}(越前市産業環境部農林振興課)・藤長祐平(同)・
村田薬師((株)環境アセスメントセンター敦賀事務所)・関岡裕明(同)

PK-70. **ダム直下河口域における住民協働による長期モニタリングの試み～沖縄本島億首川のマングローブ林を対象として～:「研」**

竹村紫苑^{*}(総合地球環境学研究所)・高里尚正(ふくらしやや自然体験塾)・
乾 隆帝(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)・鎌田磨人(同)・
赤松良久(山口大学大学院理工学研究科)